

馬場 雪乃

筑波大学システム情報系
准教授

行動経済学に基づく個人的・集団的評価の数理モデルの開発

§ 1. 研究成果の概要

本研究では、個人や集団がヒトやモノを評価する際の、認知バイアスの影響を取り除くための数理モデルの構築を目指している(図 1)。2019年度は、個人が一对比較で評価を行う際の、認知バイアスを考慮した数理モデルの構築を実施した。特に、評価の順番によって生じる、認知バイアスの除去を目指した。あるアイテム同士を比較して、どちらを選ぶかは、それぞれのアイテムの潜在表現と、前回の比較後の評価者の状態によって決まると仮定し、モデル化した。アイテムと、直前の状態を入力とする、深層学習モデルによって、今回の比較後の、評価者の状態が出力される。この状態に従って、今回の評価結果が決まる。また、この状態が、次回の評価の際の入力として使われる。このようなモデルにより、評価の順番による、評価者の状態の遷移を表現し、評価の順番によって生じる認知バイアスの影響を表現した。

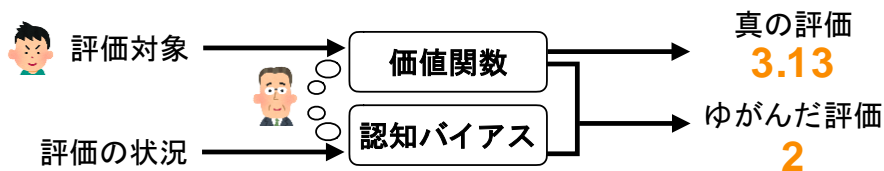


図 1 認知バイアス除去のイメージ図